



## ノープログラムは、ノープロブレム！

11月末利用の福崎町立八千種・田原・福崎・高岡小学校連合（以下、「福崎町連合小」という。）は、2日目から4日目の3日間の活動を、4校混合による「朝来山登山・オカリナの絵付け」、「火おこし・野外炊事」、「隠れ家づくり」の3グループに分けて活動しました。



野外炊事の用具や食器類は、水が冷たく洗うのに時間がかかることが想定されることより、急遽、学校から持参されるように変更になりました。当初の片付け終了時間よりも随分と早く片付けが終わり、自由時間が出来、子どもたちは、のびのびと芝生広場や自然観察館横の池等で遊んでいました。他校の自由時間（フリータイム）では、指導補助員が中心となって大屋根広場で音楽に合わせて踊っていることが多くあります。福崎町連合小は、指導補助員に任せるのではなく、子どもたち自身が、それぞれに自由に遊んでいました。その間、先生や指導補助員は、子どもたちの遊びを見守り、また、一緒に遊んでおられました。フリータイムの時間に、交代の先生方の引き継ぎをされているような学校もありますが、子どもたちへの安全管理がしっかりと行き届いていました。何かの活動を子どもたちにさせないといけないという考え方ではなく、活動と活動の間の空いている時間こそ、子どもたちの自主性に任せていいのです。子どもは、「遊びの天才」であり、事前指導をしっかりとしていれば、特に問題はないと思います。当然、リスクマネジメントの観点から、先生方の打ち合わせで、指導者の配置場所や役割分担をしっかりとしていかなければならないというのは言うまでもありません。

福崎町連合小では、これらの子どもたちの活動からも「学校間の交流も図り、信頼関係を深める」というねらいに迫ることができたようでした。また、実施報告書にも、「4校混合班での活動メニューやフリータイム・余裕の時間を設定し、そのなかで連合小学校としての交流の場を多く設けることができた。友だちの輪が町内へと広がった。友だちの違った一面に気付くことができた。」と、記載されていました。



## 第3回自然体験活動1日講座を開催！



平成25年11月26日（火）に、「自然でつくる」をテーマに第3回自然体験活動1日講座を開催したところ、高等学校の10年経験者研修7名を含む58名の先生方に参加いただきました。

午前中は、例年の「草木染め」に変えて、「染め木」を行いました。兵庫教育大学の森岡名誉教授、明石市立清水小学校の河合先生の「染め木」を組み込んだ環境体験活動の実践を参考に、また、指導を仰いで準備してきました。



染色方法には、元口（もとくち）染色法と穿孔（せんこう）法の2種類があります。元口染色法は、対象樹木の元口が15cm以下のもので、人力で作業できるものに適して

いるので、清水小学校の選択プログラムとして、19人の子どもたちが林業体験として取り組みました。作業手順・注意事項は、以下のとおりです。

- ① 対象樹木を地上から4～50cmの位置で伐り、溶液の入ったバケツ等に挿入する。
- ② 挿入後は容器をビニール袋等で被い、雨水の流入を防止すること。
- ③ 伐採した場合、対象木が不安定となる場合は、直近の立木を支えとして結束するか、適当な立木がない場合は、ロープを張って三点結束をして安定を図ることが大切である。
- ④ 染料濃度は化学染料、食用色素のいずれも0.5%程度を目安とする（例：20ℓバケツでは、水8割程度に対して、染料フィルムケース1箱分程度）。



(森岡名誉教授からの資料提供)

今回の講座で、実習した穿孔法の作業手順・注意事項は、下記のとおりです。

- ① 広葉樹の高木やスギ、ヒノキの中径木等、元口直径が15cm以上で人力作業が難しい対象木に適している。
- ② 立木状のままに染色するため、伐木やロープ結束は不要であるが、あらかじめ用意したポリタンク等に染料溶液を用意しておき、ドリルで穿孔した穴にタンクからビニールパイプで溶液を送る。
- ③ 穿孔の穴数、穿孔の深さは樹種によって異なるが、いずれも複数個必要であり、貫通孔にはコルク等で液の漏れを防止する必要がある。

(森岡名誉教授からの資料提供)

染色の説明を聞く上で、多くの先生方が、木の内側が染色されている様子を見て驚かれています。立木を間伐し、その間伐材の再利用として染め木をして、それらをクラフトに用いることで、環境教育として一連の学習が成り立ちます。また、樹木の導管の働き、樹液流動や光合成時の葉の蒸散作用等、理科の分野における学習にもつながります。染め木体験を通して、木が生きていることを実感し、森の大切さや木の美しさを学び、自然との共存・共生の必要性を考えさせることができると思います。今年度、本校が推進している伐採体験を行う目的の一つになり得る活動と言えます。

午後からは、本校で事前に準備した染木やどんぐり、松ぼっくり等の木の実や木の葉、木の枝等を使い、自然物クラフトに取り組みました。リース、ペンダント、置物等様々な創意工夫を凝らした作品を製作することができました。



受講者の感想の中には、「自然の中で、自然に触れ、実際にやってみるという実体験が子どもの心の豊かさを育てるのだろうと実感できる研修であった」と記載されていました。今回研修したことを、学校教育の中に生かし、子どもたちに自然とふれ、自然物から何か創る楽しさを伝えてくれることを期待したいものです。

#### ☆参加者の感想より（一部抜粋）☆

- ・この染色をしたのは初めてで、おもしろかった。木の性質を使った染色方法が興味深い。本来の木の色や模様の良さも残しつつ、それぞれの個性や美しさ、おもしろさが出ていてよかった。
- ・5年前は、染色（草木染め）体験をした。今日は、また新しい染木体験でとても新鮮だった。ここに来ると、普段知り得ないことも知ることができる。また心も体も癒やされる気がする。

#### 編集後記

来年度の自然学校のプログラムを考えるにあたって、フリータイムや染め木体験が、新しいプログラムを作り出す、何かのヒントになると思っています。そんなことを意識して、「指導課だより」を作成しました。

(文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也)